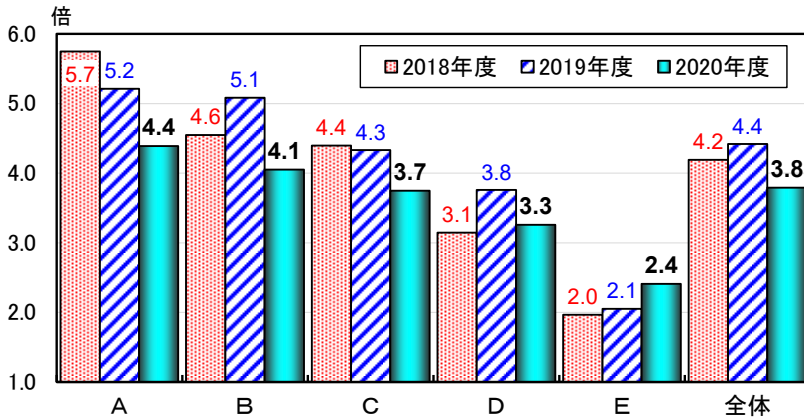


2020年度入試状況分析【私立大】

◎模試合格判定ライングループ別実質倍率

□文系はEグループのみ実質倍率アップ、他の4グループははっきりと競争緩和



※2020年度基準で2020年度・2019年度を分類、2018年度は2019年度基準で分類。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞
 Aグループ＝65以上 Dグループ＝50～54
 Bグループ＝60～64 Eグループ＝49以下
 Cグループ＝55～59

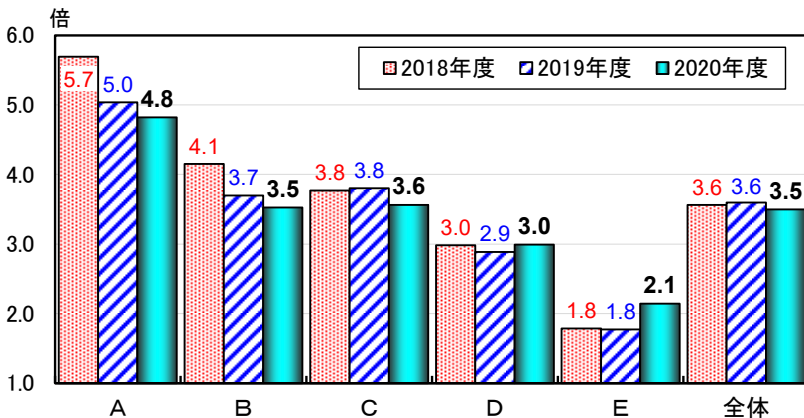
受験者数、合格者数のいずれも判明している募集単位について、学部単位(一般方式とセンター利用方式は分ける)で算出した実質倍率を第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類して3か年分を示したのが左のグラフです。

文系は、全体では4.4倍から3.8倍と0.6ポイントダウンしており、競争は緩和しました。グループ別では、A～Dグループは0.5～1.0ポイントのはっきりとした

ダウンで、競争が緩和しました。一方で、Eグループは0.3ポイントアップで、競争が厳しくなりました。

前年度の文系は、Aグループ以外は競争が厳しくなりましたが、2020年度入試では文系人気の低下に加え、前年度の競争激化から受験生が弱気な出願になったことで、A～Dグループでは競争が緩和したことがわかります。すなわち、2020年度の文系の入試は、難易度の高い大学ほど競争が緩和したため、強気で志望を貫いた受験生にとってはチャンスだったといえます。

□理系は文系のような競争緩和はみられず



※2020年度基準で2020年度・2019年度を分類、2018年度は2019年度基準で分類。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞
 Aグループ＝65以上 Dグループ＝50～54
 Bグループ＝60～64 Eグループ＝49以下
 Cグループ＝55～59

理系は、全体では3.6倍から3.5倍と0.1ポイントダウンに留まって、ほぼ前年度並の競争となり、文系のような競争緩和はみられませんでした。

グループ別でも、文系同様に難易度が低いグループでは競争が厳しくなりましたが、Eグループは0.3ポイントアップ、Dグループは0.1ポイントアップに留まりました。また、A～Cグループは、いずれも0.2ポイントダウンに留まりました。